

授業のシステム化をはかるための マネージメント術



1 発行のねらい

そもそも「英語通信」を発行し始めたのは、やや薄っぺらな内容になりがちなコミュニケーション活動中心の授業を充実させるためであった。この5年間で90号ほど発行した中で、次のような効果が期待できることがわかった。

- ① 授業で教えきれなかったことを補足する。
→題材の深化や文法等の補足説明
- ② 英語に対する興味・関心を喚起する。
→楽しい話題や言語の面白さの提供
- ③ 発展的な学習への門戸を開く。
→自発的・発展的学習への情報提供
- ④ 努力の成果を披露し学習意欲を喚起する。
→活動結果の発表と優秀作品の公表
- ⑤ 生徒指導に役立てる。
→相談事項の集約やマナー等の提示

特に、④は英語通信の真骨頂を発揮する点であり、学級の枠を越えた話題を共有できる。

2 英語通信の利用法

(1)教材として用いる

教科書の題材に関する新聞、雑誌等の記事や原作を紹介すると副教材として利用できる。その場合、設問を含んだ内容にすれば、生徒は読み進めながら自習できる。

(2)情報源として与える

私の場合は、ほとんどがこちらの利用法を採用している。授業の最初や最後に配布して、主な内容に触れ、生徒自身の興味に応じて利用できるようにしている。なお、内容についてテストに出題するなどはしないようにしている。

3 英語通信制作の実際

(1)内容

制作者の意図によって様々な内容が考えられる。次に挙げたのは、過去の記事を先の5つの効果別に分類したものである。

- ① 授業内容を補足するもの
 - ・異文化紹介(帰国子女体験談等)
 - ・文法道場(誤答分析による文法解説)
 - ・学習方法(ノート作成、テスト対策等)
 - ・情報提供(英検申込、テスト結果分析等)
- ② 英語学習への動機付けを図るもの
 - ・他教科教員の英語学習体験談
 - ・AETの話(助言、インタビュー等)
 - ・教育実習生の話(本校の特殊性から)
 - ・英語マンガ(市販のもの)
 - ・クイズ(国名あて、クロスワード等)
- ③ 発展的な学習を促すもの
 - ・ことわざ ・名言 ・英詩
 - ・他言語入門(独語、韓国語等)
 - ・文学紹介 ・映画シナリオ
- ④ 活動を評価し意欲を喚起するもの
 - ・活動結果発表(優秀者の発表)
 - ・作品発表(優秀作品の発表)
- ⑤ 生徒指導に役立てるもの
 - ・学習に関する相談事項の返答
 - ・国際人のマナー ・中学生のマナー

(2)留意点

せっかく時間を割いて制作する通信であるから、紙面を制作する上ではその利点を生かされるようにしたい。経験的には次のような留意点が挙げられる。

